みずかん通信 令和４年 陽春 発行

あなたはだぁれ？

ここ2年間は同じような状況が続いたせいか、新年を迎え年度が変わってもあまり心機一転とはならないような気がしますが、みなさまはいかがお過ごしでしょうか？

さて、上の写真は今年の1月初旬、紫川上流のとある場所で採取したエビです。一見、なんてことないただのエビに見えるかもしれませんが、私はこのようなエビを上流域で見たことがなく、種類も分からなかったため持ち帰って調べてみることにしました。というのも、淡水域で見られるエビは数種類いますが、普通は頭からお腹にかけて黒い模様があります。その模様の形状が種の判別に役立つのですが、このエビはその模様がよく見えません。ほんの薄っすらと淡い橙色の模様が見える程度です。何らかの外来エビの放流による影響も疑いましたが、付近一帯をしばらく探しても見つかったのはこの1個体だけ。断言はしませんが、何か放流されたものが定着した可能性はほとんどないと考えて良いだろうと思われました。

模様があまり見えないため、他の形態的特徴を見てみなければなりません。まずは脚の長さに注目します。甲殻類の脚は「歩脚」と呼ばれ、その長さでおおよそのグループ分けをします。淡水で見られるエビは大きく分けてヌマエビ科とテナガエビ科の2つ。ヌマエビ科は観賞魚水槽のコケ取り役としても人気が高い植物食傾向の強いグループで、歩脚は目よりも前にある「額角」という尖った部分を越えません。一方テナガエビ科は、その名の通り長い手を持つテナガエビの他、筋模様がはっきりしたスジエビを含む、肉食傾向の強いグループです。このエビは額角を越える長さの歩脚がありましたので、テナガエビ科であることが分かりました。

続いてその脚の長さですが、テナガエビは体と同じくらい長い歩脚を持ちますが、このエビはそこまで長くありません。先端にはちゃんとハサミもあることから、腕がちぎれているわけでもありません。ということで、このエビはテナガエビ科の中のスジエビの仲間であるところまで分かりました。

では、結局なんという種類なのか？という核心を突いていくわけですが、私の見解はおそらく「模様の薄いスジエビ」というもの。ただ、自信が持てなかったので、水生生物に詳しい方々に聞いてみることにしました。すると皆さんも「スジエビだと思う」とのご回答。ただ、このような個体は見たことがないようです。スジエビ自体は普通種であり個体数も多いのですが、比較的珍しい変異個体ということになるそうです。

今回採取したエビは4㎝ほどだったため一目で違和感に気づくことができましたが、これが小さなエビであればおそらく気づいてもいなかったでしょう。身近なところにも意外な出会いがあることを思い知らされたと同時に、その出会いを見逃さないために、もっと自然に目を向けてみようと思った出来事でした。

お花見カヌー体験を開催しました

うららかな春の日差しが降りそそぐ３月27・28日の２日間、カヌーに乗って紫川沿いの桜を眺める「花見カヌー」を開催しました。残念ながら当初予定していた２６日は、強風と大雨のため中止となってしまいましたが、開催できた27・28 日の両日は風もなく穏やかな陽気で絶好のカヌー日和！満開というわけではありませんでしたが、春の風を感じて最高の条件のなか実施できました。

まだまだ満開ではない桜もありましたが、しだれ桜はきれいな花を咲かせています。川面から桜を眺めるのは、この時期ならではの体験です。

川の上から眺める桜は格別ですが、もちろん川沿いを歩きながらでも楽しめます。みなさんもぜひ紫川の桜を見にお越しください！

さらに今年の夏は、全国でもほとんど例が無いであろう「お堀カヌー」も開催します。小倉城のお堀にカヌーを浮かべ、水上から小倉城を見上げる体験は滅多にできるものではないはずです。ぜひご参加ください。

春来たりなば夏遠からじ

長い冬が終わり、春の嵐が吹きました。そんな時は川に入れませんが、雨がやんで流れが落ち着いたのを確認して川へ出かけてみると、いろんな魚たちと会うことができます。

【アブラボテ】
今では唯一紫川で見られるタナゴ。去年の春に生まれたと思われる子供たちがたくさん群れて泳いでいました。

【イトモロコ】
どこの川にもいるし、紫川でもありふれた魚ですが、知名度は低い印象。でも、きれいな魚です。

【オイカワ】
こちらは紫川ではなく、福津市の川で採取しました。何とも涼しげな、清涼感のある鱗の輝きが美しいです！

早いもので今年も４分の１が過ぎ、朝夕の冷え込みも和らいできました。と言うことはもうそこまで夏が来ているということ！みなさんもぜひ水辺へ出かけてみましょう！

爬虫類展示コーナーに看板を設置しました！

飼育担当のかいくんが週に 1 度講師として授業をさせていただいている専門学校の学生さんと、爬虫類展示コーナーの看板を作成しました！

約 90 ㎝の大きな木の板に文字を書き入れていきます。また、片隅には熱で焦がしながら描くクラフトペンで学校名も入っています。

完成した看板は、かいくんと同じく飼育担当のゆうちゃんが仕上げを施してから、ドアの上に吊るしました。看板にも注目していただけると嬉しいです。

かいくんの おさかなトーク ～ゴマフエダイ編～

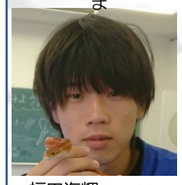
私は魚が大好きで、特に好きなのは背鰭に「棘（きょく）」が発達したタイプの魚です。また、下顎が若干突き出た魚や全体のシルエットと尾柄高（びへいこう）のバランスが整っている魚、紡錘形の魚や、臀鰭基底部から尾鰭までのグラマーなラインが美しい魚を見ると興奮してしまいます。（他にも色々ありますが、引かれそうなのでやめときます…）

さて、このゴマフエダイは私にとって超ドストライクの魚のひとつで、いつか会いたいと強く思っていた魚でした。しかし、この魚は普段、南西諸島などに生息しています。幼魚は黒潮に乗って日本沿岸を北上することがありますが、特に黒潮の影響を受ける紀伊半島や房総半島、四国の太平洋側以外では滅多に見ることができません。福岡県でも確実な採取記録はほとんどなく、私にとって「幻の魚」とも言える憧れの存在でした。

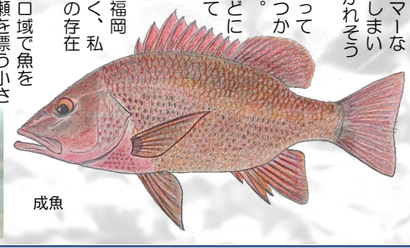
令和3年10月、市内のとある河口域で魚を探していると、水深10㎝ほどの浅瀬を漂う小さな黒い魚を見つけました。なんの根拠もありませんでしたが、私は直感で「ゴマフエダイだ！」と思い網で掬ってみると、本当にゴマフエダイでした。ほんの一瞬目に入っただけで、しかも数m離れた場所から見ただけでなぜそう思ったのか分かりませんが、今までいろんな魚に出会った中でも特に嬉しい出会いのひとつでした。

普段は暖かい海に住んでいるものの、黒潮の影響によって北上する魚を「無効分散」、冬の寒さに耐えきれず死んでしまう魚のことを「死滅回遊魚」と言い、このゴマフエダイも無効分散として北上してきた魚です。福岡県で繁殖している魚ではないため、また野外で探してもなかなか会うことはできないと思われます。

現在、このゴマフエダイは水環境館で展示していますが、見れば見るほどその可愛さにメロメロです。数年前、自宅で同じフエダイ科のヨコスジフエダイという魚を飼っていたことがありますが、それ以上に貪欲で人懐こさがある気がします。顔を近づけると寄って来たり、お腹がパンパンになるほど餌をむさぼったり、とにかく動きの一つひとつが可愛らしさに満ち溢れています。採取した当時は2㎝にも満たないほどでしたが、約2か月で三倍以上の大きさになりました。皆さんもぜひ可愛らしいゴマフエダイに会いに来てください。



福田海輝（かいくん）
日本産魚類と全国の市民会館が好き。永遠の 19 歳もとうとう 8 年目になりました。

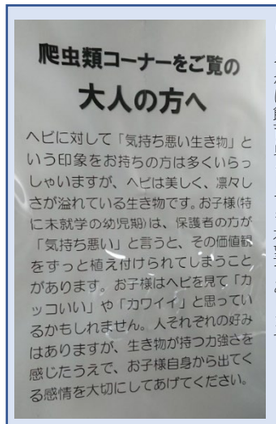


～飼育員の戯言～ 「価値観を押し付けるな」という価値観の押し付け

昨年の夏、爬虫類展示コーナーに「ヘビを気持ち悪いと言わないでね」という趣旨のパネルを設置しました。というのも、ヘビは気持ち悪いという感覚が浸透しているせいか、ご覧になる方も口々に「キモっ！」と連呼していたのが気にかかっていたからです。そんなに気持ち悪いなら見なければいいのにと思いつつ、（私なりに）なるべく当たり障りのないよう配慮して書き起こし、パネルを設置しました。

しばらくするとそのパネルをツイートされた方から連絡が入りました。私はSNSを一切していないため疎いのですが、どうやら反響が大きかったようで、そのことを教えてくださったのでした。また、そのご縁でメディアからも取材があり、報道も数件していただくことになりました。結局、年末までに計12万以上のリツイートがされたそうです。

飼育員の仕事は「インタープリター」という、自然と人との間に立つ、言わば通訳としての役割を担っています。物言わぬ生き物の持つ魅力を何とか言語化し、人に伝えるのが務めなのですが、それはとても難しいことでもあります。特に、多くの方が先入観を持っていたりする場合、それを覆すことは簡単ではありません。ただ、私個人としては別に生き物を好きになってほしいとまではあまり思っていません。気持ち悪ければ目を背けるのは何ら間違いではないとも思います。もちろんその生き物を好きになってもらえれば、それはとても嬉しいことです。しかし、負の感情を他人にも押しつけ、共感を得ようとするのは安易ですし、ちょっと違う気がします。好きとまではいかずとも少しでも興味を持ってもらい、「気持ち悪い」の先にある関心に訴えかけることができたなら、それは飼育員としても本望であります。



ちなみに、「爬虫類展示コーナー」に代わる良い名称が思い浮かびません。何か案がある方はぜひスタッフまで！

水環境館
RIVER MUSEUM
住 所 / 北九州市小倉北区船場町 1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日（長期休暇期間中除く）・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体
http://mizukankyokan.jp